

視 察 報 告 書（委員用）

2024 年 10 月 20 日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会

勝田 鮮二

㊞

令和 6 年 8 月 19 日から令和 6 年 8 月 21 日まで鳥取市議会“会派”未来ネットの一般行政視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

日時；8 月 19 日（月）13：30～15：00 新潟県新潟市（現地）（新潟駅周辺整備事務所）新潟駅周辺の整備視察

人口；764, 012 人 世帯数；351, 224 世帯 面積 726.19 km²

議員；50 名

面会者；新潟市駅周辺整備事務所） 様、市議会）長尾 様

古くから {みなとまち} として栄え、1889 年（明治 22 年）市制施行以来、近隣市町村との合併によって、人口約 81 万人となり、2007 年（平成 19 年）4 月 1 日に本州日本海側初の政令指定都市となる。

整備された高速道路網や上越新幹線により、所と県と直結しているなど、陸上交通網が充実しており、国際空港、国際港湾を擁し、国内主要都市世界を結ぶ本州日本海側最大の都市として、高次の都市機能を備えている。

さらに、広大な越後平野は、米のほか、野菜、果物、畜産物、花き類など、農畜産物の一大産地である。

<テーマ1>

新潟駅周辺地区の整備について

1) 事業の概要について

新潟駅周辺整備により、鉄道を挟んだ南北市街地の一体化を図り、自動車、自転車、歩行者の安全かつ円滑な交通を確保するとともに、賑わい空間の創出により[日本海拠点都市にいがた]としてふさわしい都市機能の強化を図っている。

<現状>

- ・南北市街地の発展に不均衡が生じている。
- ・シンボリックな施設が無く、陸の玄関口としての魅力に欠ける。

<整備方針・目的と事業計画概要>

- ① 連続立体交差事業⇒踏切の除却による安全性と利便性の確保と複数の道路の立体交差化を一挙に実現するため、鉄道在来線の高架化行う。
- ② 幹線道路整備事業⇒駅周辺地区の円滑、安全な交通環境の実現に向け立体交差道路と、関連幹線道路の整備を行う。
- ③ 駅前広場整備事業⇒新潟の陸の玄関口として、鉄道とバスなどの交通が結びつき、それぞれの乗り換えの利便性を向上させるため、駅前広場と駅直下バスターミナルの整備を行う。

<課題>

2) 整備における課題や問題点と対応について

駅周辺⇒南北市街地の一体化を図り、都市機能（商業業務・交通機能）の強化・集積を図る。

さらに、生活道路の整備、公園、広場、居住環境を改善する。

踏切 ⇒地区内の踏切で交通混雑が慢性化しているための解消対策要。
また、歩行者と車両が狭い踏切を通過するため、危険状態の解消が必要。

3) 今後の取り組みについて

整備方針・目的と事業計画を推進し、課題も検討しながら取りまとめていく。

- ・連続立体交差事業⇒2012年～仮ホームの使用開始後、高架化工事を実施。

2018年～高架ホームと新幹線・在来線の同一ホームを共用、新幹線との乗り換え利便性向上。

2022年～新潟駅の全ての高架化工事を完了させ、鉄道高架橋の下において、土地の有効利用や道路整備を進める。

- ・幹線道路整備事業⇒2018～2021年～立体交差として、新潟鳥屋野線が最初に開通させ、古町地区を結ぶ幹線道路とする。

2022年～高架橋完成後、隣接する工事の事業進捗を踏まえ、4線の整備を進めて行く。

- ・駅前広場整備事業⇒2012年～新潟駅万代広場の部分整備。

2023年～在来線全線高架後、駅直下バスターミナル完成させる。駅南北を直接結ぶバス路線の運行を可能とする。

<所見>

連続立体交差事業による新潟駅のスリム化されており、
(ホーム4面・線路7線→ホーム3面・線路5線)、地下自由通路内(多くにベンチを設置・特産品の店舗設置)各種趣向を凝らしていると思った。
また共用することにより、駅を利用しない方も迂回することなく南北の行き来ができるようになっていたり、駅前広場も一部共用開始され、鉄道とバスの乗り換えの際、雨に濡れることなく利用できるなど、利便性が向上されたり、とても参考になった。

本市の駅周辺開発に大いに参照するべきと感じた。



<テーマ2> 8月20日(火) 9:30~11:30

新潟・アグリパークについて

アグリパークとは➡農業に触れ、親しみ、農業を学ぶ場を提供する、日本初の公立教育ファームのこと。

アグリパークでは、

- ・教育委員会が中心となって作成した、学習と農業体験を結び付けた農業体験学習「アグリ・スタディ・プログラム」を実施している。
- ・幼稚園や小・中学校、一般向けなど、子どもから大人まで幅広い年齢層の方が体験できるプログラムが用意しており、学

校だけでなく、家族、友達同士、町内会などでも利用が可能となっている。

- ・プログラムには主に、クラブハウス、体験ハウス、体験圃場、体験畜舎で実施され、地域の農家の方との連携により、果樹や稲作体験など、近隣圃場にて活動できる内容も用意されている。

<所見>

7haの広大な敷地に効率よく配置され、物品販売やレストランも併設し、観光にも利用されており、きめ細やかなプログラムのもと、小さい頃から農業に感心をもって、将来農業に従事してもらう。人材育成は、農業振興の観点から、とても重要で本市の参考となる取り組みと感じた。

機会を捉えて一般質問をし、行政や市民に広報し、今回の視察先の取り組みを訴えていく。



<テーマ3> 8月20日(火) 13:00~14:30

新潟・白根グレープガーデンについて

50年にわたり大型ハウス内に、ブドウ・イチゴを中心に14品種のフルーツを栽培し、一年365日、いつ来てもフルーツ狩りが出来る観光農園を運営している。

さらに、自社農園で採れたフルーツを使用し、カフェをオープンし、とても好評だと説明を聞き、多いときは4000人/日の来場があり、駐車場も大型バス、自家用車のスペースを確保している。

雇用；役員⇒3人 正社員⇒16人 パート⇒3人 ガードマン⇒若干名
で定着率100%

売上高

H9年；4000万円⇒R1年；1億4000万円

R5年；カフェのオープンでさらに+α

<所見>

本市も、温泉熱を利用したイチゴ農園があるが、12月～5月は売り上げがあるものの、6月～11月は植え付け、土壌改良、設備点検はあるが、売り上げは無く、雇用しているパート・アルバイトは自宅待機となっており、雇用の安定につながっておらず、今回の視察は大いに参考となった。

今後は、多角経営の重要性や6次化加工の促進、販売を含めて、地域での観光ルート、体験など滞在型が重要と感じた。

機会を捉えて一般質問をし、行政や市民に今回の視察先の取り組みを訴えながら広報していきたい。



<テーマ4> 8月21日（水）9：00～10：30

新潟県・燕市議会）若者会議について

つばめ若者会議は、若者たちが理想とする燕市を実現するために、活動していく、まちづくりの場。

若者のエネルギーを、まちづくりに活かしながら、人材育成などを行うことを目的に2013年に発足。

現在、高校生メンバー⇒燕市役所まちあそび部48名

⇒ふるさとづくり大賞受賞

20代メンバー⇒燕ジョイ活動部 38名

30代以上 ⇒様々な活動(自由)27名

累計261名の若者が活動に参加、年代別に様々な活動をしている。

<メンバーの推移>

2013年⇒75人 2020年⇒99人 2021年⇒110人 2022年⇒123人

2023年⇒113人

<ふるさとづくり大賞>令和4年度受賞

全国各地で、それぞれの地域{ふるさと}をより良くしようと頑張る団体、個人を表彰することにより、ふるさとづくりへの情熱や思いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図るもの。

<会議の目標>

- ・理想とする燕市の将来像を実現するためのアイデアを考える。
- ・若者のまちづくりに対する意識の醸成。
- ・若者同士の交流による「つながり」の強化。

<会議のかたち>

- ・全体会議メンバー全員で話し合い、交流・情報共有を行う会議。
- ・企画会議有志のメンバーで、全体会議の企画や運営について話し合う会議
- ・自主会議チーム毎にそれぞれの活動内容について話し合う会議。

<リンク>

- ・つばめ若者会議とは(つばめ若者会議のサイト)
- ・つばめの幸福論 2013⇒若者たちが理想とする20年後の燕市の将来像「未来ビジョン」などをまとめたPDFを閲覧できる。(P1~P80)
- ・SNSを活用している。
- ・公式 facebook 開設中

<所見>

累計261名の若者が活動に参加し、取り組み事業数が153事業(R5年度末)、さらに地域や企業との協働事業は39事業と事業成果を上げていて、若者会議が成功していると大いに感じた。

行政にはない視点での意見や即行動する高校生のことを視察研修でき、本市も取り入れ可能な事業は、行動に移すべきと感じた。

若者のアイデアが地域を活性化することを再認識でき、今後の活動につなげて行きたいと多いに感じた。

また、今回の視察説明に行政だけでなく、議員も参加して頂き、生の声が聴けたのも、参考になるし良い取り組みと感じた。

若者をサポートする3つのポイント

- ① 課題を提示しない ② 意見やアイデアを否定しない ③ 結果や成果を意識させない とのこと「なるほど」と感じた。

本市議会は①はテーマを決めて、そのことに対しての意見を求めているが、それはそれで、良いと思うが、燕市の取り組みは否定することなく、それぞれの場面で対応すればよいと感じた！参照したい。



視 察 報 告 書

鳥取市議会議長 様

令和 6 年 8 月 3 0 日

鳥取市議会 会派未来ネット 米村 京子

令和 6 年 8 月 1 9 日から令和 6 年 8 月 2 1 日まで鳥取市議会一般行視察に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

令和 6 年 8 月 1 9 日（月）

○新潟駅周辺地区の整備について

新潟駅周辺整備事務所で説明を聞く。駅前は、鳥取駅より広大で、南側と北側を合わせると比較にならないほどだった。高架西南北を自由に往来できてショッピングセンターもあり、ゆとりを感じることができた。駅南にもタクシー乗り場があり、多くの台数の駐車スペースが確保されていた。乗合バスは、高架下から行先ごとに何十台も運行しており、清水建設の広大な整備の話からも、さすが 70 万人の玄関口だと実感した。

令和 6 年 8 月 20 日（火）

○アグリ・スタディ・プログラムについて

○6 次産業化支援について

アグリパーク内には、ログハウス、作業場、牛舎、農場があり、敷地も広く圧倒された。子ども



達を対象とした教育プログラムがあり、様々な農業体験を通して農業への興味や関心が高まる内容となっていた。説明から子ども達が楽しみながら活動している様子が伝わり、学校からの評価も高いとのことであった。冬季の活動について課題はあるものの、本市にとっても参考になると感じた。

6次産業化支援については、加工についてのみでなく、商品化のためのラベルについてのクラスもあり、きめ細やかな支援を行っていることがわかった。



○白根グレープガーデンについて

代表取締役より、施設についてご説明いただいた。先代から引継ぎ、課題はありながらも施設を展開していった流れを聞き、事業に対する熱い思いが伝わってきた。新潟で初めの観光農園であり、来園者も3000人、3万人と増加し、ピーク時には10万人もの人が来園したそう。働きたいと思える職場となるよう、従業員に対しての配慮もされており、経営者の努力や信頼関係によ

り成功していると実感した。ハウス
一面、たわわに実っていた大粒のぶ
どうが印象的であった。



令和6年8月21日（水）

○つばめ若者会議について

本市とは手法が異なるが、若者の意見を大切にしているという点は共通していると感じた。つばめ若者会議では、若者の自由な発想を大事にし、出てきた意見を意見で終わらせるのではなく実現へとつなげている。その過程の中で大人と関わり、地元への思いも育っていくと感じた。本市議会でも応募のあった高校へ出向き、学生と意見交換をしている。今後も継続し、さらに発展させていきたい。



視 察 報 告 書

令和 6 年 8 月 26 日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 会派未来ネット

長坂則翁

令和 6 年 8 月 19 日から令和 6 年 8 月 21 日まで鳥取市議会一般行政視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

新波県新波市

調査項目 --- 新波駅周辺整備事業について

◎ 新波駅周辺整備事業とは、新波駅整備は、日本海側の
周辺

拠点にふさわしい都市機能の強化に向け、鉄道在来線の
高架化（R4第6月5日高架化）や立体交差道路、駅前広場等
都市基盤をばじめとし、駅周辺市街地の総合的な整備を
図るものである。

○ 駅周辺地区の役割と将来像

[役割]

- 日本海側国土軸の強化
- 「新波」の拠点性の向上
- 新波駅を挟んだ都市軸の形成
- 公共交通の結節機能の強化

[将来像]

- 北東アジア交流の陸の玄関口
- 水と都心がかたち都市軸の要
- 人と環境に優しい都市交通体系の主要ターミナル

○整備方針・目的と事業計画概要

〔整備方針・目的〕

新浜駅周辺整備により、鉄道を挟んだ南北市街地を
一体化を図り、自動車、自転車、歩行者の安全かつ円滑な
交通を確保するとともに、賑わい空間の創出により「日本海
拠点都市に『がたん』としてふさわしい都市機能の強化も
図るものがある。

〔事業計画概要〕

- 連続立体交差事業
- 幹線道路整備事業
- 駅前広場整備事業

～所見～

本市は鳥取駅周辺都市改造事業から約半世紀が経過する
なかで、時代に沿った交通施設等の機能の再構築が
求められている中で、「人が集い、交流の能力あふれる街
鳥取OACTSの創造」と基本理念を以て鳥取駅周辺再生
基本計画が策定されている。

この基本計画に沿って着実に事業実施がなされることを
強く求める。

新潟県新潟市

調査項目--- アグリ・スタディ・プログラムについて

- アグリ・スタディ・プログラム(ASP)とは、新潟市の
 学校園で行う新潟にふさわしい、農業体験学習
 プログラムの総称である。学習指導要領に基づき、
 それぞれの教科等について、農業体験活動も
 含まれた單元等を構成した基本プログラムで
 農林水産部と教育委員会が中核となって作成
 されている。
- ASPの位置付けとして、「学力・体力・自信をもち
 世界と共に生きる豊かな子供」の実現である。
- ASPの基本構想として、農業体験も各教科等の
 学習に位置付けざることにより、農業のすばらしさに
 気付き、人との絆や命を大切にし、ふるさと新潟を
 愛し、誇りに思うとともに、よりよく問題を解決に
 いく力を高めていくこととしている。
- 期待する子供の姿として①持続可能な社会の
 実現に向け、よりよく問題を解決していく子ども(未来のリーダー)
 ②豊かな食文化に感謝、命と人との絆を大切にす
 子ども(命のストーリー)
- ①農業のすばらしさに気付き、ふるさと新潟を愛し、
 誇りに思う子ども(郷土愛のストーリー)
- ASPで大切にすることとして①五感を通して学ぶ
 ②アグリエlementに学ぶ③何くことを通して学ぶ④アクティ
 ーティングで学ぶ⑤専任家に学ぶとしている。

○プログラム数は④小学校編⑤中学校・中等教育編
 ①特別支援学校編②幼稚園・保育園編
 ③適応指導教室編で合計709

基本プログラム(その他ツアープログラムあり)がある。

- ASPの成果として①東園(新宮市アグリパーク)に学校の
 学習のねらいも達成させることができたこと、多くの
 児童生徒が農業体験に満足することができたこと
 ②プログラムを通じ、児童生徒が新宮市の農業に
 対する誇りに高まりがうかがえることがいえる。

～所見～

鳥取市では市農林水産部、教育委員会が連携した
 アグリ・スタディプログラムは策定されておらず、
 農林水産部の農業体験学習が行われて
 いる程度であり、本市もASPの策定に向け
 検討する必要があると考える。

新潟県新潟市

調査項目---6次産業化支援について

① 新潟市ではアグリパーク内に、6次産業化の取り組みを支援する食品加工支援センターがあり、①事務室

②商品開発室③相談室④デザイン室⑤商品開発室

⑥食品加工室が構成(施設)されている。

⑦食品加工室は①検収・下処理・食品庫②精米・製粉加工室

③味噌製造加工室④漬物製造加工室⑤アクリル加工室

⑥野菜・果物加工室⑦畜肉製品加工室

⑧菓子製造加工室⑨惣菜調理室⑩乳製品製造加工室

⑪めん類製造加工室⑫製品保管出荷準備室。

各々の室がある

⑧ 6次産業化(農家生産)へのステップとして①加工室利用について相談②試験・試作の実施③生産・販売についての準備・アドバイス④保健所での商品開発の確認・相談

⑤テスト生産・販売⑥自前工場・工房立ち上げのための

計画アドバイスなどが取り組まれている。

～所見～

本日も農林漁業者自らが加工・流通・販売までを主体的に取り組む6次産業化への支援を取り組んでおり、ワイン、~~果~~らっきょう、干し草等の加工品への支援の取り組みが行なわれているが、今後品目の増加も含め強かに推進していくがなければならない。

新潟県新潟市

調査項目---白根グレフガーデン

1. 地域概要

- (1) 新潟市南区は、新潟平野のほぼ中央に位置し、東側に信濃川、中央に中之口川が流れ、田園が広がっている。
- (2) 昔から果樹栽培が多く行われており、県内でもトップクラスの生産量も誇っている。
- (3) 観光果樹園も複数あり、収穫体験を通じて、情報発信も盛んに行なわれている。

2. 会社概要

- (1) 会社名 有限会社 白根グレフガーデン
- (2) 設立 平成9年12月に法人化
- (3) 業内容 観光農園(果樹14品目、いちじく)
- (4) 利用者数 約13万人(年間)
- (5) 年間売上 1億3,000万円
- (6) 従業員数 役員3名、正社員16名、パート3名
- (7) 栽培面積 果樹400a いちじく4a 計404a

～所見～

- 。白根グレフガーデンは、365日いつでも旬のフルーツを楽しむことができる。
- 。本市も鹿野町において、温泉水を活用していちじくの栽培が行われており、期間が限定されており、年間を通じて従業員を雇用はできないと考へる。
- 。本市も白根グレフブランドを参考にしながら年間を通じて観光農園の開設が望まれる。

新潟県 燕市

調査項目---つばめ若者会議について

1. 概要

2013年スタートした燕市のまちづくり事業=若者が何を
考えているのかという立場でスタート

2. 対象

高校生から40歳までの若者(出身地域は問わない)

3. 特徴

政策提言型ではなく、自発性と主体性を重視し
活動のプロセスを大切に、結果として新しい
何かが生まれていく。

4. 目的

若者からまちを知ってもらう人材育成を重要視している。
そのために①次世代リーダー まちづくりの担い手
育成をする②若者同志の協力推進=つながり
づくりを行う③若者の活動推進

5. 役割分担

・メンバーと事務局はまちづくりにおける良きパートナーとして
協力し合う。

・ファシリテーター・通常ミーティングのコーディネーターは職員。

・メンバーの役割

・事務局の役割

・アイデア出し

・スケジュール調整

・活動の実行

・場所の確保

・情報発信など

・必要な資料作成

・お金のこじはじ

6. 年代別実施

年代

プロジェクト名

事務局役割

社会人

主体的・主体的推進

30代以上

・きんがざぶりチーム

・相談等、人的サポート

・ふくし×まちづくりチーム

学生・社会人

運営・実施方者も学ぶ

チーム会議の開催

20代以下

・燕ジョイ活動部

・相談等、人的サポート

高校生

まちを知る・地域とつながる

・チーム会議の開催

・燕市役所まちあるき部

・アイデア実施へのサポート

企画・調整等の全体的な

サポート

・全体的なプロジェクトの実施

7. 事業に取り組んだ結果(成果)

- ・活動したことで実施することで、地域や団体の声に変化がみられた。
- ・自分にはない高校生や視点をもとに共有することで視野が広がった。
- ・高校生やゆふい界団体を参考にラジオ番組づくりをするようになった。
- ・「やってみないとわからない」即行動する高校生や若者の姿を見て気づかされた。
- ・燕市との関わりが高校生年代の女性や若者へ継続の関わり続けがとがま
- ・できるようなこと

8. 若者をサポートする3つのポイント

- ① 課題を提示しない。
- ② 意見やアイデアを否定しない。
- ③ 結果や成果を意図させない。

～所見～

今日、民主主義の根幹たる選挙の投票率は各種の選挙で低迷している。選挙権が引き下げられても選挙の投票率は低い状況が続いている。

そのような中で鳥取市議会としても市民との距離を縮め市民が議会に関心を抱いてもらい、開かれた議会を目指し平成26年度から議会報告会、意見交換会を市民・高校生・大学生を対象に実施している。この取り組みは、継続すべきであり、今回、視察を通じて、やり方、内容、進め方等、全般に亘って検討すべきであると感じた。

燕市では、特に政策提言型ではなく、また課題も提示しない自主性と主体性を重視し取組は参考となった。

若者

更に燕市の取組は高校生が主体が開催されており、本市の高校生も果敢に高校生と意見交換会を一度は実施すべきと考えます。